



チェックポイントへ向かう親子

布はしましたが、これをいかに活用していくか、どのようにして住民の防災意識を高めていくかが次の課題となってきました。防災啓発活動をする場合、重点の一つとして、子供や若い世代への啓発活動があると思います。

そこで、平成二十五年度の「徳島市自主防災組織充

勝占東部コミュニティ協議会では、平成二十四年度に「地震・津波避難支援マップ」を作

成しました。このマップは地域内の各家庭、小学校、保育所、法人、企業等へ配布しました。

勝占東部コミュニティ協議会
会長 高島 伸一

親子防災オリエンテーリング

コミュニティ だより

徳島市コミュニティ会
徳島市幸町2丁目5番地
〒770-8571
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511



親子防災オリエンテーリング大会のチェックポイント

地図を見ながら下記のチェックポイントまで行き
クイズに答えて解着用紙に記入してね

- 1 中央公園 (慎重要注意)
- 2 東公園 (慎重要注意)
- 3 日峰参道入口 (慎重要注意)
- 4 千原氏館 (慎重要注意)
- 5 広澤氏山林 (慎重要注意)

注意

順番はどこかはじめてもかまいません。
黄色のゼッケンをつけているのは大会本部スタッフです。
道中、困ったことが起こったらスタッフにたずねるか、もしくは大会本部まで 081-831-1004
ゴールタイムのはやい、おそい順ではありません。
交通安全に十分注意して、必ず親子一緒にいるください。
グッド・ラック!!

実施は二月二十三日(日)、スタッフは、協議会・自主防災会の役員、消防団員、児童館の職員等総勢二十七

実・活性化事業の一環として、

論田小学校の児童と保護者を

対象とした「親子防災オリエン

テーリング」を計画しました。

これは「マップ」に示された避

難場所をチェックポイントとし

て、そこを親子で一緒に回り、

ポイントに示された記号と防

災クイズの回答を解着用紙に

記入してゴールする競技です。

また、タイムについては「速さ」

を競うのではなく、あらかじめ

決められた標準タイム(参加

者には知らされていない)と

の時間差(速い遅い関係なく)

により得点を決めました。

事業実施に当たっては、「子

供の安全を守る会」に共催を

お願いし、広報・申込等小学校

に全面的に協力をしていただき

名でのぞみました。

当日は午前八時三十分

に役員集合、打合せ後、出発、採点、

計時、途中観察、ポイント観察

等の配置につきました。

参加者は児童・保護者七十

七名が午前九時三十分

に集合、開会行事の後、競

技をスタートしました。

天候にも恵まれ、心配した

寒さもなく、親子で楽しく避

難場所を

回つてもら

うことがで

きました。

全員ゴー

ルの後、表

彰式・閉会

式をして終

了です。
反省点も

かいとうようし 解答用紙 (答え)

番号	1	名前	かつら とうぶ
----	---	----	---------

こたえはひとつだけ かいてね

1	B	い
2	B	あ
3	B	け
4	C	す
5	A	た

こたえはひとつだけ かいてね

こたえはひとつだけ かいてね

こたえはひとつだけ かいてね

タイム	
クイズ	

クイズの解答用紙

1. 教室で勉強しているときに、大きな地震がおきたら、まず、どうしよう?正しいと思う記号を書きなさい。

A 逃げ遅れないように、急いで廊下に出る。

B 防災ずきんをかぶり、机の下に潜る。

C 窓際に逃げる。

い

防災クイズの一例

多々ありますが、一応初期の目的は達成できたものと思います。次回は今回回れなかった避難場所をチェックポイントに設定して、炊き出し訓練と合わせて実施する予定です。

ると賛成してくれる人がたくさん集ってくれました。

世界はひとつといわれる今日このごろ、応神町出身の人たちもいろいろなところに住んでいると思います。現在の子どもたちが大人になり、ここで暮らしてもふるさとを思い、負けないで頑張ってくれるよ
うな、そしてたったひとつの歌ですが「応神小唄」によって私が人と知り合えたように、これから先、歌を通して人と人が知り合い助け合っていけたらと思います。そして次の世代へ、また次の世代へと継いでいき、いつもまでもふるさとを思いふるさとの歌を思い出してくれる、そんな「応神音頭」を仲間の人々と一緒に作ろうと計画しています。敬老会に
応神学園運動会にとみんなが一緒に歌い踊り、少しでも町の活性化に役立てればと夢を次へ次へと大きくふくらませています。

子どもたちの水難事故を防ぐために

不動コミュニティ協議会



水難事故とは、海や河川、プール等の水域で起こる事故のことをいいます。水泳中や魚釣り、水遊び中に発生することが多く、これらの事故を防ぐため、不動町では子どもたちが川で遊ぶ機会が多くなる夏休み前に、防犯協力会を中心に、徳島西警察署、不動中学校・小学校、不動総合センターと協力して、不動町を流れる吉野川、鮎喰川、飯尾川の三つの川に水難防止看板を設置しています。



わかるようにイラストで注意を呼び掛けています。

この看板は手作りで、コンパネを切ってペンキで下地を塗ります。その後、スプレーで絵や文字を型抜きしたプレートで一枚一枚ずつ手作業で吹きつけていきます。ペンキが乾いたらクリアーを塗り、できあがりです。小さな子どもでも

看板立ての当日は、二班に分かれて作業を行います。吉野川・飯尾川班は町内の用水路や水門等約五十カ所の点検を行い、傷んでいれば付け替え作業を行います。鮎喰川班は約二十五枚の看板周辺の草刈りや点検、付け替え作業を行います。皆さん暑中、一生懸命に作業を行ってくれています。



夏休み直前には、不動防犯協力会の役員が、小学校や中学校の子どもたちに水難事故防止についてや、休み中の過ごし方について対話集会を行っています。
この看板のおかげで、大きな水難事故は起こっていません。今後も、不動の子どもたちが安全で安心して暮らせる不動町を目指して地域一丸と努めます。

～昔の伝統行事体験活動～ 「子ども餅つき大会」

東富田コミュニティ協議会

毎年、二月の寒の季節に地域の各種団体や関係諸機関の協力を得て「子ども餅つき大会」を実施しています。いろいろな行事の中でも、この行事は子どもたちに人気があり、毎年この日を楽しみにし、年ごとに参加者が多くなっています。

近年は餅米を一石近く準備

し、この日は子どもたちが思う存分楽しめるようにしています。今日、核家族化が大きく進む中で、子どもの生活環境が目まぐるしく変わり、人と人との交流の場が少なくなるなど、幅広い人間性の育成の場が失われてきているように思われます。

このような中で、当協議会では町づくりの大きな柱として、地域の子どもたちが心豊かにたくましく育ってほしいとの願いから、子どもの育成



杵と臼を使っての餅つき体験



お餅を丸めます

ることを重視した行事にしたいと思っております。

今回の餅つきもこの一つで、昨年は二月九日に富田小学校校庭で実施しました。地域の保育所、幼稚園児、小・中学生の約二百名とその保護者、学校の先生方、そして地域各種団体の皆さん、地域内に

子どもたちも全員が大人に交じり、つき体験ともみの体験をしました。途中、つきたての餅をきなこ餅にしたり、大根おろしやあんこをまぶしておなかいっぱい試食しました。また、帰りには全員が自分たちでついた餅をお土産にもらって帰りました。子どもたちは多くの体験ができたことと思います。

を重点施策の一つとして実践

しています。健全な

子どもの育成が、ひいては地域の人々が

安心して生活できる

町づくりに繋がって

いくことになると思

うからであります。

とりあえずは、古

くは各家庭や地域で

行われていた季節ご

との伝統行事を洗い

出し、これを復活さ

せ、実際に体験させ

二つある秋田町・沖の浜交番

のお巡りさんにも働

きかけ参加していた

だきました。コミュ

ニティ協議会の役員、

健全育成会、学校P

TAの女性役員が二

日前から米洗いや諸

道具の準備をして当

日に備えました。

当日は、午前八時

から蒸し始め、九時

前から三台の臼を



みんなで試食

シリーズ
名所・旧跡

阿波織創製紀功碑

新町コミュニティ協議会

泉 隆治



阿波織創製紀功碑

新町地区のシンボル眉山は、藩政時代末頃から「眉山」と呼ばれ、「万葉集」般王の詠歌「眉の如雲居に見ゆる阿波の山かけて傍ぐ舟知らずも」に由来するといわれています。その眉山公園の大滝山には、記念碑・句碑・歌碑・供養塔など数多く存在します。

あまり知られていませんが、その製品は今も本県の特産品として全国に知られています。阿波のしじら織の碑。発明者が海部ハナ、一八三一（天保二）年八月十一日〜一九一九（大正八）年六月三十日であります。その功績をたたえるため、明治三十四年七月にし

じら織関係者によって、中腹八坂神社の境内に碑が建立されています。

碑の高さ百九十五センチメートル、幅百十三センチメートル、厚さ十五センチメートルの青石でつくられています。表面上部には公爵近衛篤磨氏の題字があり、その下には歴史家重野安繹氏の撰文があり、巖谷修氏の名筆によって刻まれています。その時代の国で名士に執筆を依頼し得ることのできた当時藍染しじら織関係者（美馬儀一郎氏を中心）の努力があったのです。

海部ハナは、天保二年八月十二日那賀郡平島村（阿南市那賀川）に生まれています。明治期に下級武士の海部家は、家禄を失い、ハナは窮境打開のため機織をはじめたのです。明治元年家外で乾燥していたところ、夕立にあい、所々縮ちぢみができたのです。これをヒントに種々試作して、し

じら織と名付けました。これを呉服太物商伊予屋さんに見てもらったのです。主人は即座に一反たんを銀百二十匁もんめで買い上げたのです（当時米一升が五匁であった）。ハナは誇らず独占することなく公開して、近所の子女たちに伝授し、次第に普及して本県の新産業となり当時の満州、中国など国内外に販売されたのです。

ハナは晩年、家業を娘夫婦に継承し、仏教に帰依し、神社仏閣に財を寄進したのです。また、恵まれない子どもたちのために慈恵院などにも金品を寄付

されたのです。

これが発明者海部ハナの阿波織創製紀功碑であります。



阿波織創製紀功碑

12

海部ハナ(1831~1919)=那賀郡・横見の農家に生まれ、25歳で名東郡安宅(現徳島市安宅)の士族・海部家に嫁ぐ。貧しい士族の家計を助けるため織りを始め特産「阿波しじら」を創製。伝統工芸品阿波・正藍しじら織りの生みの親。

新町地区文化おこし事業

上八万色彩 まちの取り組み

上八万まちづくり協議会

会長 阿部 増江

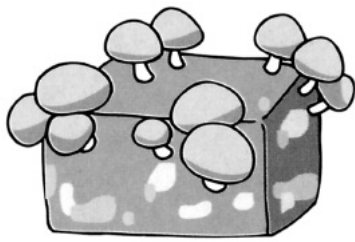
市内から上八万町に入ると、道路工事が大規模に行われています。平成二十七年三月頃、南環状道路(法花く大木地区)として開通予定です。

上八万大木地区が、インターとして利用いただけるようになります。まだインターの名前は決まっていますませんが、どんな名前がつくか関心のあるところですよ。

上八万といえば、山に囲まれた気質のいい所。佐那河内村大河原高原の最高峰旭ヶ丸に湧き源を持つ園瀬川がその流域に東流しています。一宮町・上八万町は、佐那河内村と西面に接し、園瀬川の北岸に形成されています。そのため、菌床しいたけの生産が園

瀬川水系を中心とした水利関係で行われています。この菌床しいたけの発祥地は、なんと、上八万・一宮地区です。

昭和六十年代前半に、しいたけ菌床栽培が始まり、現在では四十六戸以上の生産農家があり、七百トを超える出荷ペースで生産するに至り、日本農業大賞も受賞しました。繊細で、傷つきやすいしいたけは、栄養いっぱい。中で



も、エリタデニン(血液のコレステロールを下げる)そうです。台所には無くてもならぬいしいたけ、肉厚で美味しく新鮮、しかも安全。ぜひ一度食べてみていただきたいものです。

平成十六年、上八万は台風二十三号による大洪水を受けました。床上浸水、自動車は浮くなど、大きな被害を受け、救出はゴムボートという大変な災害でした。

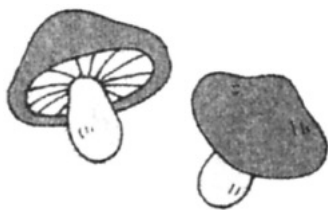
あれから十年、地域の人の力、そして行政の力添えのおかげで、排水防衛事業として取り組みが行われました。文化の森から園瀬橋に向かう左側に何かならぬと思う大きな建物があります。それが、排水ポンプ建家です。一秒間に

四・二五ト、排水するポンプが二基可動するそうです。平成二十六年五月二十六日総合試運転を行いました。平成二十六年十月には竣工式を行う運びになっています。

また、川北地区にも排水ポンプが平成二十六年年度にできあがり、竣工式が近々行われる予定です。

長年、洪水にみまわれた湧水地帯も堤防の築堤や排水ポンプの設置等でこれからは安心して暮らせることでしょう。これもまた、地域の皆さまが力を合わせたおかげです。

上八万地区は、団結力を持った発展性のある、人と人とのつながりと、心温かいおもてなしのある町です。



編集後記

徳島の夏といえば阿波おどり。阿波おどりの起源の一つに、三好記の中に、勝瑞館での記事があります。領主は屋形をつくり、その前を十五、六歳の少女が五十人扇笠を着せ、白きはだ着の着物をして、白華の足袋をはきおどる姿が描かれています。今年の夏も元気で阿波おどりを踊り、見るあほうになり古い歴史の伝統を守っていきましょ。

今月号は、子どもたちの郷土の伝統や文化を大切にする活動と地域の大人たちの努力を紹介していただきました。渭北の「昔の遊び指導」や勝占東部の「親子防災オリエンテーリング」の新開発活動、東富田の昔の伝統行事体験活動「子ども餅つき大会」、どれもこれも地域ぐるみで子ども健全育成を図ろうとする慧眼です。

また、不動地区の子どもたちの生命を守る水難事故防止のための手製の看板づくりを敬服します。上八万の優れたしいたけ栽培も町の誇りです。新町からは海部ハナさんの阿波しじら織の貴重な歴史を紹介してくださいました。今月号は全てに感謝感激です。

(佐藤義忠 記)